

自己点検・自己評価基準項目チェックシート(平成26年度版)

※ 記入箇所は太枠の部分のみです。チェック欄には次の記号を入れてください。
 ○=満たしている △=改善を要する ×=不十分
 ※ 小項目(ア, イ, ウ)ごとに記入願います。記入欄は適宜増やしてください。

基準	項目	担当	前年度自己点検評価状況	前年度改善を要した事項	チェック欄	実施・改善状況	改善を要する事項
1 学習・教育目標の設定と公開 1-1 学習・教育目標の設定と公開	(1) 学習・教育目標の設定と公開 ア 学習・教育目標	教務委員会 (専攻科委員会)	【教務委員会】 学習・教育目標の設定を行っている。		○	【教務委員会】 学習・教育目標の設定を行っている。 【電子情報工学科・制御情報システム工学】 制御情報システム工学プログラムについて2014年度JABEE継続審査を受け認定された。	学習教育目標及び授業との対応関係について改善する必要がある。
			【専攻科委員会】 学習・教育目標は設定されている。		○	【専攻科委員会】 学習・教育目標は設定されている。 【電子情報工学科・制御情報システム工学】 制御情報システム工学プログラムについて2014年度JABEE継続審査を受け認定された。(再掲)	学習教育目標及び授業との対応関係について早急に改善する必要がある(再掲)
	イ 学習・教育目標の各項目と基準の設定およびその関係	【教務委員会】 学習・教育目標の各項目に基づき、各学科の特色に合わせた基準を設けている。		○	【教務委員会】 学習・教育目標の各項目に基づき、各学科の特色に合わせた基準を設けている。 【電子情報工学科・制御情報システム工学】 制御情報システム工学プログラムについて2014年度JABEE継続審査を受け認定された。(再掲)	学習教育目標及び授業との対応関係について早急に改善する必要がある(再掲)	
		【専攻科委員会】 学習・教育目標の各項目と基準の設定は適切に実施されている。		○	【専攻科委員会】 学習・教育目標の各項目と基準の設定は適切に実施されている。		
	ウ 学内外への公開方法と公開時期	【教務委員会】 HP、学生便覧に掲載。(新学科は平成22年4月から掲載)		○	【教務委員会】 HP、学生便覧に掲載。(新学科は平成22年4月から掲載)		
		【専攻科委員会】 富山高専の公式webサイトを修正し、JABEE認定教育プログラムの学習・教育目標を公開した。		○	【専攻科委員会】 JABEE認定教育プログラムを含め、学習・教育目標を公開されている。		
	エ カリキュラムに関わる教員への周知方法	【教務委員会】 教員会議・各委員会・各学科において周知している。		○	【教務委員会】 教員会議・各委員会・各学科において周知している。		
		【専攻科委員会】 JABEE認定の教育プログラムの履修の手引きを配布し、周知している。		○	【専攻科委員会】 JABEE認定の教育プログラムを含め、履修の手引きを配布し、周知している。		
	オ 学生への周知方法および周知時期(学年、学期)	【教務委員会】 入学時のオリエンテーションで周知している。(1年生対象、4月)		○	【教務委員会】 入学時のオリエンテーションで周知している。(1年生対象、4月)		
		【専攻科委員会】 専攻科入学時のガイダンスで専攻科のしおり、JABEE認定の教育プログラムの履修の手引き等を配布し周知している。		○	【専攻科委員会】 専攻科入学時のガイダンスで専攻科のしおり、JABEE認定の教育プログラムの履修の手引き等を配布し周知している。 【電子情報工学科・制御情報システム工学】 制御情報システム工学プログラムについて2014年度JABEE継続審査を受け認定された。(再掲)	学習教育目標及び授業との対応関係について「W」の判定を受けたため、早急に改善し学生に周知する必要がある。	
	(2) 伝統、資源、卒業生の活躍分野等の考慮、社会の要求や学生の要望への配慮 ア 過去4年間における学習・教育目標の改訂内容と改訂理由	教務委員会 (専攻科委員会) 各学科・専攻科	【教務委員会】 富山高専専門学校設置に伴い、学習・教育目標を新たに定めた。		○	【教務委員会】 富山高専専門学校設置に伴い、学習・教育目標を新たに定めた。 【電子情報工学科・制御情報システム工学】 制御情報システム工学プログラムについて2014年度JABEE継続審査を受け認定された。(再掲)	学習教育目標及び授業との対応関係について早急に改善する必要がある(再掲)
			【専攻科委員会】 過去4年間で学習・教育目標に変更はない。サブ目標は一部改訂している。		○	【専攻科委員会】 学習・教育目標に変更はない。 【電子情報工学科・制御情報システム工学】 制御情報システム工学プログラムについて2014年度JABEE継続審査を受け認定された。(再掲)	学習教育目標及び授業との対応関係について早急に改善する必要がある(再掲)
			【機械システム工学科】 新学科への改組時に検討をおこなった。		○	【機械システム工学科】 新学科へ改組時に設定した学習・教育目標を、継続実践した。	
			【電気制御システム工学科】 平成22年度に新学科として発足しており、そのときに学習・教育目標を設定しており、以来変りはない。		○	【電気制御システム工学科】 平成22年度に新学科として発足したカリキュラムの科目間連携を再検討し、科目の学年配当の変更および第3学年における科目の新設等の変更により、教育効果の向上を図った。新カリキュラムは平成27年度入学生から適用している。	

自己点検・自己評価基準項目チェックシート(平成26年度版)

※ 記入箇所は太枠の部分のみです。チェック欄には次の記号を入れてください。
 ○=満たしている △=改善を要する ×=不十分
 ※ 小項目(ア, イ, ウ)ごとに記入願います。記入欄は適宜増やしてください。

基準	項目	担当	前年度自己点検評価状況	前年度改善を要した事項	チェック欄	実施・改善状況	改善を要する事項
			<p>【物質化学工学科】 【物質工学科】 新学科に改組したとき、新たに制定しており、完成年度まで改訂しない。</p> <p>【電子情報工学科】 情報工学科から新学科、電子情報工学科へ移行したので改訂を行った。</p> <p>【国際ビジネス学科】 ・国際ビジネス学科の新設に伴い、教育目標(到達目標)を以下の通り定めた。その際、同時に設置した専攻科国際ビジネス学専攻の学習カリキュラムとの整合性も考慮した。 ・経営学、商学等の知識に、技能としての外国語を結びつけることによって、国際化されたビジネスに対応する知識と思考を有する人材を育成する。 ・環日本海地域で活躍できるビジネスパーソンとして、経営学、商学等の知識に立脚した分析力と問題解決力を有する人材を育成する。</p> <p>【商船学科】 海技者育成の観点から、科目内容について変更はない。ただし大型練習船実習時期移行に伴う商船学科の教育課程表の改正を行った。平成26年度入学生からは、2年次に1か月の短期実習、4年次に5か月の短期実習が行われる。さらに、教育課程表改正に伴う進級要件等の改正も行った。</p> <p>【機械工学科】 平成17年度の改訂以来変更はない。平成19年度にカリキュラムの一部を変更しているが、学習・教育目標に変わりはない。</p> <p>【電気工学科】 ・幅広い分野にまたがる電気工学の基礎理論と技術の修得。 ・技術の高度化に伴い、枝葉末節にこだわらない、より基礎・基本の重視を確認すると共に、「統合力・総合力」を身につけた技術者の育成を目指した。 ・学科単位で志願者の変動した中学校を回り、その原因等の調査を行った。 ・志願者対策に関しては、学科および志願制の変更により、新学科に引き継いでいる。</p> <p>【環境材料工学科】 昨年度との変更点なし。</p> <p>【電子制御工学科】 必要がなかったため改訂は行っていない。</p> <p>【一般教養科】 出身中学・地域などにも留意し、一部の教科では学科ごとに異なる教科書を用いている。</p>		<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>【物質化学工学科】 物質化学工学科の教育目標、およびアドミッションポリシーの改正を検討した(継続中)。</p> <p>【電子情報工学科・制御情報システム工学】 制御情報システム工学プログラムについて2014年度JABEE継続審査を受け認定された。(再掲)</p> <p>【国際ビジネス学科】 今年度は、新任教員の加入による会計学の補強、及び、国際人にふさわしいビジネスパーソンの育成に努めていくために、国際関係論、外国語教育の異文化理解・国際理解教育を強化するカリキュラムの改定を行なった。</p> <p>【商船学科】 大型練習船実習時期移行に伴う商船学科の教育課程表の改正を行った。平成26年度入学生からは、2年次に1か月の短期実習、4年次に5か月の短期実習が行われる。さらに、教育課程表改正に伴う進級要件等の改正も行った。海技者育成の観点から、科目内容について変更はないが、大型船実習の移行に伴い、学年配当の変更、また、選択科目の中で養成施設絡みの科目を必修科目とするなどの変更も行った</p> <p>【機械工学科】 平成17年度の改訂以来変更はない。平成19年度にカリキュラムの一部を変更しているが、学習・教育目標に変わりはない。</p> <p>【電気工学科】 幅広い分野にまたがる電気工学の基礎理論と技術の修得を新学科に引き継いできた。平成26年度に電気工学科の最終学生が卒業した。</p> <p>【一般教養科】 出身中学・地域などにも留意し、一部の教科では学科ごとに異なる教科書を用い、学科ごとに適正な学習・教育目標をおいている。</p>	<p>学習教育目標及び授業との対応関係について早急に改善する必要がある(再掲)</p>

自己点検・自己評価基準項目チェックシート(平成26年度版)

※ 記入箇所は太枠の部分のみです。チェック欄には次の記号を入れてください。
 ○=満たしている △=改善を要する ×=不十分
 ※ 小項目(ア, イ, ウ)ごとに記入願います。記入欄は適宜増やしてください。

基準	項目	担当	前年度自己点検評価状況	前年度改善を要した事項	チェック欄	実施・改善状況	改善を要する事項
	イ 社会の要求や学生の要望を考慮するためのシステムの存在と運用実績		<p>【教務委員会】 学生による授業評価アンケート結果を通して、学生の要求・要望等の把握を行っている。</p> <p>【機械システム工学科】 新学科への改組時に検討をおこなった。</p> <p>【電気制御システム工学科】 訪問した企業から本校に対する意見や要望を聞いた。学生からは授業評価アンケートと授業点検アンケートによって、授業の速度やレベル、学生の意見などを聴取した。</p> <p>【物質化学工学科】 【物質工学科】 学生による授業評価アンケート、求人を訪れる企業の意見などから、学生の要望や社会の要求を考慮している。</p> <p>【電子情報工学科】 ・学生に対して、企業、卒業生を招いて、ガイダンスを行った。 ・グリーンイノベーション研究会分科会「電子情報技術研究会」を学科として発足し、電子情報分野に関して地域産業界と議論する場を設けた(7月、2月の2回実施)。</p> <p>【国際ビジネス学科】 ・教員による企業訪問および入学動機調査を継続実施している。 ・引き続き、社会で求められる人材輩出のための指導を頻繁に行っている。具体的には、5月と12月に卒業生を講師に招き、就職・進学の動機や進路に向けた対策の意識づけを行っている。また、5年生の進路が落ち着いた冬期においては、4年生を対象として、民間企業、公務員、大学編入の3つに区分して、詳細な助言によって継承する機会を設けている。</p> <p>【商船学科】 ヒューマンインフラとしての教員の活動、プロダクツとして、海事人材育成プロジェクトが進行中である。本プロジェクトは文部科学省の大学間連携共同教育推進事業、「海事分野における高専・産業界連携による人材育成システムの開発」で、本年度は2年目にあたる。例えば「英語力育成」、「教材開発」、「電子書籍化」、「海技者像調査」プロジェクトなどが進行しており、本校が主導的役割を担って行われている。</p>		<p>○ 【教務委員会】 学生による授業評価アンケート結果を通して、学生の要求・要望等の把握を行っている。</p> <p>○ 【機械システム工学科】 新学科へ改組時に検討を行った通り、授業評価アンケートや授業点検アンケートを実施し、学生の要望を取り入れた。また、求人や共同研究、技術振興会などを通じて交流のある企業から本校に対する要望などについて懇談した。</p> <p>○ 【電気制御システム工学科】 訪問した企業から本校に対する意見や要望を聞いた。学生からは授業評価アンケートと授業点検アンケートによって、授業の速度やレベル、学生の意見などを聴取した。</p> <p>○ 【物質化学工学科】 学生による授業評価アンケート、求人を訪れる企業の意見などから、学生の要望や社会の要求を考慮している。</p> <p>○ 【電子情報工学科】 ・学生に対して、企業、卒業生を招いて、ガイダンスを行った。 ・学科独自に授業アンケートを実施した。 ・学科独自に1年生向けの助言教員制度を実施した。</p> <p>○ 【国際ビジネス学科】 今年度は予算減のため教員による関東、関西、中京方面への企業訪問を実施することが出来なかったが、引き続き、卒業生による進学・就職ガイダンス、及び、進路が確定した5年生による4年生に向けた学内進路ガイダンスを充実させて行なうことができた。さらに、4年生の「ビジネス・ゼミナール」の授業においては、進路概況、大学編入、専攻科進学、海外大学への進学、民間就職、公務員就職にわけて各担当教員から4年生の学生に向けて、年度初めに進路ガイダンスを行なった。これは今後も継続していくことにしている。</p> <p>○ 【商船学科】 ヒューマンインフラとしての教員の活動、プロダクツとして、海事人材育成プロジェクトが進行中である。本プロジェクトは文部科学省の大学間連携共同教育推進事業、「海事分野における高専・産業界連携による人材育成システムの開発」で、本年度は3年目にあたる。例えば「英語力育成」、「教材開発」、「電子書籍化」、「海技者像調査」プロジェクトなどが進行しており、さらに、船舶運航実務研修、船舶管理・物流業務・現地調査研修、教員英語外地研修も実施されており、本校が主導的役割を担って行われている。</p>		<p>・学科独自に1年生向けの助言教員制度を拡充する。</p>

自己点検・自己評価基準項目チェックシート(平成26年度版)

※ 記入箇所は太枠の部分のみです。チェック欄には次の記号を入れてください。
 ○=満たしている △=改善を要する ×=不十分
 ※ 小項目(ア, イ, ウ)ごとに記入願います。記入欄は適宜増やしてください。

基準	項目	担当	前年度自己点検評価状況	前年度改善を要した事項	チェック欄	実施・改善状況	改善を要する事項
			<p>【機械工学科】 求人へ訪問される企業や研究、技術振興会などを通じて交流のある企業から本校に対する要望などについて懇談する。また学生からの要望に対しては例年通りアンケートにもとづき各々改善していく。</p> <p>【電気工学科】 ・前年度に引き続き、授業改善を行った。・学生、一般向けの講演会(電気学会フロンティアセミナーなど)を行った。 ・新カリキュラムでの第2種電気主任技術者認定継続が不可能なため、旧カリ終了と共に返上の予定である。 ・希望者がいないため、電気工事技術講習会を休止した。</p> <p>【環境材料工学科】 例年通りに、基礎研究・卒業研究を通して社会のニーズに関連づけた。</p> <p>【電子制御工学科】 授業評価アンケート及び卒業生による学校評価アンケート結果を通して、要求・要望等の把握を行っている。</p> <p>【一般教養科】 射水では図書館情報センターの活用が本格化している。</p>		<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>【機械工学科】 求人へ訪問される企業や研究、技術振興会などを通じて交流のある企業から本校に対する要望などについて懇談した。また学生からの要望に対しては例年通りアンケートにもとづき各々改善した。</p> <p>【電気工学科】 ・訪問した企業から本校に対する意見や要望を聞いた。学生からは授業評価アンケートと授業点検アンケートによって、授業の速度やレベル、学生の意見などを聴取した。 ・平成26年度に電気工学科の最終学生が卒業した。</p> <p>【一般教養科】 学生による授業評価アンケートの結果を通し、学生の要望を把握した。さらにそれをシラバスに反映し、それをもとに両キャンパス共に、図書館情報センターの活用を更に推進している。</p>	
	ウ 学習・教育目標の水準の設定に関する説明		<p>【教務委員会】 学生に対し、入学時オリエンテーションで説明を行っている。</p> <p>【専攻科委員会】 水準の設定については、入学時のオリエンテーションで十分に説明されている。</p> <p>【機械システム工学科】【機械工学科】 各授業でシラバスを作成し、主として、初回に説明を行っている。</p> <p>【電気制御システム工学科】 平成22年度に新学科として発足したときに、教育目標の水準を設定した。全授業科目においてシラバスを作成し、授業開始時に学生に配布、授業計画と内容を説明した。</p> <p>【物質化学工学科】 【物質工学科】 全授業科目においてシラバスを作成し、授業開始時に学生に配布、授業計画と内容を説明している。</p> <p>【電子情報工学科】 全授業科目においてシラバスを作成し、授業開始時に学生に配布、授業計画と内容を説明している。</p>		<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>【専攻科委員会】 水準の設定については、入学時のオリエンテーションで十分に説明されている。</p> <p>【電子情報工学科・制御情報システム工学】 制御情報システム工学プログラムのJABEE受審を行った(再掲)</p> <p>【機械システム工学科】【機械工学科】 各授業でシラバスを作成し、講義初回のほか必要に応じて、授業計画や内容の説明を行った。</p> <p>【電気制御システム工学科】 平成22年度に新学科として発足したときに、教育目標の水準を設定した。平成26年度のカリキュラム改訂において、教育目標の水準を再確認した。全授業科目においてシラバスを作成し、授業開始時に学生に配布、授業計画と内容を説明した。</p> <p>【物質化学工学科】 全授業科目においてシラバスを作成し、授業開始時に学生に配布、授業計画と内容を説明している。</p> <p>【電子情報工学科】 制御情報システム工学プログラムのJABEE受審を行った(再掲)</p>	<p>学習教育目標及び授業との対応関係について、早急に改善し学生に周知する必要がある。</p> <p>学習教育目標及び授業との対応関係について、早急に改善し学生に周知する必要がある(再掲)</p>

自己点検・自己評価基準項目チェックシート(平成26年度版)

※ 記入箇所は太枠の部分のみです。チェック欄には次の記号を入れてください。
 ○=満たしている △=改善を要する ×=不十分
 ※ 小項目(ア, イ, ウ)ごとに記入願います。記入欄は適宜増やしてください。

基準	項目	担当	前年度自己点検評価状況	前年度改善を要した事項	チェック欄	実施・改善状況	改善を要する事項
			<p>【国際ビジネス学科】 引き続き、長期休暇における課題提示やプレゼンテーション大会によって、情報の収集と分析、処理、さらにはその結果を報告する技術の育成を図った実践を行っている。</p> <p>【商船学科】 各クラスの教室に商船学科の教育目標を掲示し、商船学科のWEBページで公開している。また授業科目についてはシラバスを作成し、授業開始時に教育目標等を説明している。商船学科としての教育成果の尺度の一つとして海技従事者免状の2級、1級取得率の向上があるが、学科教員の指導努力により年々その合格率が向上している。今年度は現報告段階で2級が9名合格で昨年比2倍である。また、英語力向上を旨とし、特別教育活動としてTOEIC対策講座を開講し、商船学科学生が積極的に参加した。それによりスコアも確実に上がっている。</p> <p>【機械工学科】 各授業で講義初回のほか必要に応じてシラバス等により説明を行っている。</p> <p>【電気工学科】 ・引き続き、北陸地区電気関係学会・学生による研究発表会」に学生に参加させた。また、次年度本校開催予定の同支部連合大会の準備委員会を開催した。</p> <p>【環境材料工学科】 HRなどを利用して、担任が主に説明している。</p> <p>【電子制御工学科】 学生に対し、入学時のオリエンテーションおよび低学年授業で説明を行ってきた。</p> <p>【一般教養科】 国際ビジネス学科3年の「グローバル・リテラシー」など学科の特色に合せた授業展開をしている。</p>		○ ○ ○ ○	<p>【国際ビジネス学科】 全授業科目について、シラバスを配布説明して、授業の目標、内容、評価のしくみを説明した。</p> <p>【商船学科】 商船学科の教育目標を商船学科のWEBページで公開している。また授業科目についてはシラバスを作成し、授業開始時に教育目標等を説明している。商船学科としての教育成果の尺度の一つとして海技従事者免状の2級、1級取得率の向上があるが、学科教員の指導努力によりその合格率が向上している。また、英語力向上を旨とし、特別教育活動としてTOEIC対策講座を開講し、商船学科学生が積極的に参加した。それによりスコアも確実に上がっている。</p> <p>【機械システム工学科】 新学科へ改組時に設定した教育理念に基づき、学科会議において授業科目の内容や設備、担当者などを検討し、実践した。</p> <p>【電気工学科】 ・全授業科目においてシラバスを作成し、授業開始時に学生に配布、授業計画と内容を説明した。 ・平成26年度に電気工学科の最終学生が卒業した。</p> <p>【一般教養科】 全授業科目において、初回授業にシラバスを配布し、それをを用いて必要な水準を説明している。さらに特色の異なる6学科(工学系、国際ビジネス、商船)に出席するため、それぞれの特色に合せた水準を設け、授業を展開している。</p>	
	エ 学習・教育目標における伝統、建学の精神、理念などの考慮		<p>【教務委員会】 教育理念・社会からの需要を踏まえ、学習・教育目標の設定を行った。</p> <p>【専攻科委員会】 十分に考慮されている。</p> <p>【機械システム工学科】 新学科への改組時に検討をおこなった。</p> <p>【電気制御システム工学科】 学科会議において教育理念に基づいて、授業科目の内容と設備、担当者などについて検討した。</p>		○ ○ ○	<p>【教務委員会】 教育理念・社会からの需要を踏まえ、学習・教育目標の設定を行った。</p> <p>【電子情報工学科・制御情報システム工学】 制御情報システム工学プログラムについて2014年度JABEE継続審査を受け認定された。(再掲)</p> <p>【専攻科委員会】 十分に考慮されている。</p> <p>【電子情報工学科・制御情報システム工学】 制御情報システム工学プログラムについて2014年度JABEE継続審査を受け認定された。(再掲)</p> <p>【電気制御システム工学科】 学科会議において教育理念に基づいて、授業科目の内容と設備、担当者などについて検討した。</p>	<p>学習教育目標及び授業との対応関係について、早急に改善し学生に周知する必要がある。(再掲)</p> <p>学習教育目標及び授業との対応関係について、早急に改善し学生に周知する必要がある。(再掲)</p>

自己点検・自己評価基準項目チェックシート(平成26年度版)

※ 記入箇所は太枠の部分のみです。チェック欄には次の記号を入れてください。
 ○=満たしている △=改善を要する ×=不十分
 ※ 小項目(ア, イ, ウ)ごとに記入願います。記入欄は適宜増やしてください。

基準	項目	担当	前年度自己点検評価状況	前年度改善を要した事項	チェック欄	実施・改善状況	改善を要する事項
			<p>【物質化学工学科】 【物質工学科】 新学科への改組時に学校の教育理念、教育方針及び社会からの需要を考慮し、学習・教育目標の設定を行った。</p> <p>【電子情報工学科】 就職先、進学先、本校の特徴を考慮して定めた。</p> <p>【国際ビジネス学科】 商船教育の伝統を考慮し、引き続き、練習船等を利用した実習を行った。</p> <p>【商船学科】 当世の学生の気質を学習・教育目標に適合させるべく考慮している。各クラスの教室に商船学科の教育目標を掲示している。</p> <p>【機械工学科】 毎年、学科会議において教育目標に基づいて、授業科目の内容と設備、担当者などについて前年度実績から見直し検討を行っている。</p> <p>【電気工学科】 ・企業等との共同研究に積極的に学生を参画させ、実務への理解を深めさせると共に、就職活動の円滑化を図った。</p> <p>【環境材料工学科】 卒業研究発表の場で学科長から説明している。</p> <p>【電子制御工学科】 教育理念・社会からの需要を踏まえ、学習・教育目標の設定を行っている。</p> <p>【一般教養科】 同じ学年でも教科書や参考書、担当教員などを学科の状況に合わせて選んでいる。</p>		<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>【物質化学工学科】 新学科への改組時に学校の教育理念、教育方針及び社会からの需要を考慮し、学習・教育目標の設定を行った。</p> <p>【国際ビジネス学科】 今年度も本校練習船実習の他、近隣の海洋教育施設との協力の元での実習も行なった。同時に、新学科(国際ビジネス)の専門分野である経営学の中に伝統を位置づけなおして、その意義を検討した。</p> <p>【商船学科】 当世の学生の気質を学習・教育目標に適合させるべく考慮している。商船学科のWEBページに商船学科の教育目標を公開している。</p> <p>【機械工学科】 新学科へ改組時に設定した教育理念に基づき、学科会議において授業科目の内容や設備、担当者などを検討し、実践した。</p> <p>【電気工学科】 ・学科会議において教育理念に基づいて、授業科目の内容と設備、担当者などについて検討した。 ・平成26年度に電気工学科の最終学生が卒業した。</p> <p>【一般教養科】 同じ学年でも学科の状況に合わせ、伝統や建学の理念が異なるため、それぞれの学科の特色に合わせて学習・教育目標の設定を行い、教科書や参考書、担当教員など選んでいる。</p>	
	オ 学習・教育目標におけるカリキュラムの人的、設備的資源の考慮		<p>【教務委員会】 博士号所有の専任教員及び企業を始め他機関での勤務経験者を配置し、創造的かつ実践的な技術者・実務者の育成を行っている。また、新教育課程に必要な設備整備を順次進めている。</p> <p>【専攻科委員会】 本郷キャンパス: 人的資源、設備的資源ともに変更点なし。 射水キャンパス: 人的資源に変更なし。設備的資源として、計画に従って専攻科棟内の講義室等を整備した。</p> <p>【機械システム工学科】 ・不在であった制御系教員の採用を行った。 ・新カリキュラムの内容や使用設備について各教科担当者からの意見のとりまとめている。</p> <p>【電気制御システム工学科】 学科会議において教育目標に基づいて、授業科目の内容と設備、担当者などについて検討した。電気系と材料系の実験研究設備を整備した。</p>		<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>【教務委員会】 博士号所有の専任教員及び企業を始め他機関での勤務経験者を配置し、創造的かつ実践的な技術者・実務者の育成を行っている。また、新教育課程に必要な設備整備を順次進めている。</p> <p>【専攻科委員会】 人的資源、設備的資源ともに変更点なし。 射水キャンパス: 人的資源に変更なし。設備的資源として、計画に従って専攻科棟内の講義室等を整備した。</p> <p>【機械システム工学科】 ・制御系教員の適任者を採用すべく方策が検討された。新カリキュラムの内容や使用設備について各教科担当者からの意見のとりまとめがはじめられた。学生実験の充実を図るため、共通実験室の改修工事が行われた。</p> <p>【電気制御システム工学科】 ・電気工学教科担当の教員の採用を行った。 ・平成22年度に新学科として発足したカリキュラムの科目間連携を再検討し、科目の学年配当の変更および第3学年における科目の新設等の変更を行った。新カリキュラムは平成27年度入学生から適用している。 ・カリキュラムの見直しに伴い、学科会議において授業科目の内容と設備、担当者などについて検討した。 ・校長裁量経費によりものづくり基礎工学実験およびオープンキャンパスで使用する教育実験設備を整備した。</p>	

自己点検・自己評価基準項目チェックシート(平成26年度版)

※ 記入箇所は太枠の部分のみです。チェック欄には次の記号を入れてください。
 ○=満たしている △=改善を要する ×=不十分
 ※ 小項目(ア, イ, ウ)ごとに記入願います。記入欄は適宜増やしてください。

基準	項目	担当	前年度自己点検評価状況	前年度改善を要した事項	チェック欄	実施・改善状況	改善を要する事項
	キ 学習・教育目標における卒業生の活躍分野の考慮		<p>【教務委員会】今までの卒業生の活躍分野を考慮し、学習・教育目標の設定を行った。</p> <p>【専攻科委員会】 本郷キャンパス:変更点はなし。 射水キャンパス:制御情報システム工学専攻の1名が大学院に進学した。</p> <p>【機械システム工学科】 企業の技術者による共同教育を実施したり、卒業生を招聘して講演してもらうなど、実践的な教育と学生の勉強意欲の向上に努めている。</p> <p>【電気制御システム工学科】 1年生と2年生、3年生に対してHRなどを使い、授業計画、卒業後の進路などについて説明した。</p> <p>【物質化学工学科】 【物質工学科】 新学科への改組時に、卒業生の活躍分野を考慮し、学習・教育目標の設定を行った。</p> <p>【電子情報工学科】 新学科はこれまで編入学、就職した分野を十分に対象とした。</p> <p>【国際ビジネス学科】 ビジネス分野においては、その性質上、卒業生は幅広い進路に向かうが、その幅広さに対応すること、専門性の深化を両立させることを考慮している。</p> <p>【商船学科】 特に4年時実施の企業インターンシップに学生を参加させることによって動機付けを図り、また企業から学科への企業説明の場を積極的に設けた。また、卒業生による活躍分野の実体験説明の場を4年生、3年生に作ることによって商船学科の学習・教育に生かしている。</p> <p>【機械工学科】 ・新学科のカリキュラムが本格的に専門科目に入ってきたため、目標を達成すべく、各授業の詳細な内容、開講時期、学生の理解度などについて検討を始めた。</p> <p>【電気工学科】 ・引き続き、各学年の工場見学を実施した。</p> <p>【環境材料工学科】 材料工学の知識を活かせる県内企業に就職させている。5年生に対して、企業にいる卒業生の情報を積極的に公開した。</p> <p>【電子制御工学科】 学習・教育目標に対して、卒業生の活躍分野を考慮してカリキュラムを実施している。</p> <p>【一般教養科】 化学でも、工学系、文科系、商船系に合せた内容で展開している。</p>		<input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/> <input type="radio"/>	<p>【教務委員会】今までの卒業生の活躍分野を考慮し、学習・教育目標の設定を行った。</p> <p>【専攻科委員会】 変更点はなかった。</p> <p>【電気制御システム工学科】 2年生、3年生、4年生に対してHRなどを使い、授業計画、卒業後の進路などについて説明した。</p> <p>【物質化学工学科】 新学科への改組時に、卒業生の活躍分野を考慮し、学習・教育目標の設定を行った。</p> <p>【電子情報工学科】 進学、編入学、就職した分野を十分に対象とした。</p> <p>【国際ビジネス学科】 卒業生の進路の多様性や幅の広さは今年度も従来通りの通りであった。しかしながら、こうした多様な進学先や就職先への対応は、所属教員の多岐にわたる専門分野のために維持できている面がある。この点は国際ビジネス学科の強みとして自覚し、学生の進路指導を充実させたい。</p> <p>【商船学科】 特に4年時実施の企業インターンシップに学生を参加させることによって動機付けを図り、また企業から学科への企業説明の場を積極的に設けた。また、卒業生による活躍分野の実体験説明の場を4年生、3年生、2年生に作ることによって商船学科の学習・教育に生かしている。</p> <p>【機械システム工学科】 卒業生による産学連携に関する特別講演を実施し、実践的な教育と学生の勉強意欲の向上に努めた。</p> <p>【電気工学科】 ・電気工学科最終学生のため個別に進路指導を行った。</p> <p>【一般教養科】 6学科の特色に合わせ、その活躍分野に応じた教材、シラバスを用意している。</p>	

自己点検・自己評価基準項目チェックシート(平成26年度版)

※ 記入箇所は太枠の部分のみです。チェック欄には次の記号を入れてください。
 ○=満たしている △=改善を要する ×=不十分
 ※ 小項目(ア, イ, ウ)ごとに記入願います。記入欄は適宜増やしてください。

基準	項目	担当	前年度自己点検評価状況	前年度改善を要した事項	チェック欄	実施・改善状況	改善を要する事項
2 学習・教育の量 2-1 学習・教育の量	(1) 各教育カリキュラムの修了要件	教務委員会 (専攻科委員会)	【教務委員会】 設置基準に基づき、一般科目を75単位以上、専門科目82単位以上(商船学科では62単位以上)、合計167単位以上(商船学科では練習船実習単位を除き、147単位以上)を卒業要件としている。 【専攻科委員会】 専攻科修了要件、JABEE認定エコデザイン工学教育プログラムとも変更点はなし。		○	【教務委員会】 設置基準に基づき、一般科目を75単位以上、専門科目82単位以上(商船学科では62単位以上)、合計167単位以上(商船学科では練習船実習単位を除き、147単位以上)を卒業要件としている。	
	(2) 授業時間	教務委員会 (専攻科委員会)	【教務委員会】 設置基準に基づき、1単位時間を標準50分と定めている。 【専攻科委員会】 必要授業時間数が確保されている。		○	【教務委員会】 設置基準に基づき、1単位時間を標準50分と定めている。	
	(3) 自己学習時間確保のための取り組み	教務委員会 (専攻科委員会)	【教務委員会】 4・5年次に学修単位科目を導入しており、課題・レポート等による自己学習についてシラバスに明記している。 【専攻科委員会】 修了要件確認表および特別研究調査票により、学習時間を学生自身が確認できるように配慮されている。		○	【制御情報システム工学】 制御情報システム工学専攻の特例適用専攻科受審の結果、「電気・電子」及び「情報」の2分野において「適」となった。(再掲)	
3 教育手段 3-1 教育方法	(1) カリキュラムの設計と開示 ア 学習・教育目標を達成させるためのカリキュラム設計	教務委員会 (専攻科委員)	【教務委員会】 低学年に一般的科目を多く配置し、高学年になるに従い専門科目を多く導入するくさび形の科目配置でカリキュラム設計を行った。 【専攻科委員会】 シラバスは、当該教科担当教員が中心となり作成され、教育内容、達成目標、成績評価方法等が明示されている。		○	【教務委員会】 低学年に一般的科目を多く配置し、高学年になるに従い専門科目を多く導入するくさび形の科目配置でカリキュラム設計を行った。 【専攻科委員会】 修了要件等について、学習時間を学生自身が確認できるように配慮されている。	カリキュラム改訂による学位授与機構への申請を行う必要がある。
	イ カリキュラムの教員および学生への開示方法		HP及び学生便覧にカリキュラムを掲載している。また、入学時にオリエンテーションで説明を行っている。		○	【制御情報システム工学専攻】 制御情報システム工学専攻の特例適用専攻科受審の結果、「電気・電子」及び「情報」の2分野において「適」となった。(再掲) ・制御情報システム専攻では、本科が完成年度を迎えるため、これに対応するカリキュラム改訂を行なった。	
							HP及び学生便覧にカリキュラムを掲載している。また、入学時にオリエンテーションで説明を行っている。

自己点検・自己評価基準項目チェックシート(平成26年度版)

※ 記入箇所は太枠の部分のみです。チェック欄には次の記号を入れてください。
 ○=満たしている △=改善を要する ×=不十分
 ※ 小項目(ア, イ, ウ)ごとに記入願います。記入欄は適宜増やしてください。

基準	項目	担当	前年度自己点検評価状況	前年度改善を要した事項	チェック欄	実施・改善状況	改善を要する事項
	(2) 科目の授業計画書(シラバス)の作成・開示とそれに従った教育の実施 ア 各科目のシラバス(カリキュラム)中の位置付け、教育内容・方法、達成目標、成績評価方法、評価基準(明示)の作成	教務委員会(専攻科委員会)	【教務委員会】 モデルコアカリキュラムを考慮し、従来の項目にさらに「育成する社会人基礎力」「単位の内訳」「JABEE基準」「科目の達成目標」項目を追加し、両キャンパス共通のシラバスを作成することとした。 【専攻科委員会】 シラバスは、当該教科担当教員が中心となり作成され、教育内容、達成目標、成績評価方法等が明示されている。		○	【教務委員会】 モデルコアカリキュラムを考慮し、従来の項目にさらに「育成する社会人基礎力」「単位の内訳」「JABEE基準」「科目の達成目標」項目を追加し、両キャンパス共通のシラバスを作成することとした。 【電子情報工学科】 制御情報システム工学プログラムについて2014年度JABEE継続審査を受け認定された。(五編) 【専攻科委員会】 シラバスは、当該教科担当教員が中心となり作成され、教育内容、達成目標、成績評価方法等が明示されている。	学習教育目標及び授業との対応関係について、早急に改善し学生に周知する必要がある。(再掲)
	イ 各科目における達成目標設定の際の社会の要請する水準の考慮方法		【教務委員会】 学生による授業評価アンケート結果を十分検討し、作成している。 【専攻科委員会】 シラバスは、学生による授業点検アンケート、科目別学習目標達成度調査の結果を十分検討した上で作成されている。		○	【教務委員会】 学生による授業評価アンケート結果を十分検討し、作成している。 【専攻科委員会】 シラバスは、学生による授業点検アンケート、科目別学習目標達成度調査の結果を十分検討した上で作成されている。	学習教育目標及び授業との対応関係について、早急に改善し学生に周知する必要がある。(再掲)
	ウ シラバスの開示方法		【教務委員会】 Webにより公開、又学生には印刷し配付している。 【専攻科委員会】 ホームページ上で公開しており、各教員が学期開始時の授業で、印刷したものを配布している。	公式サイト内でのリンク設定に、一部わかりにくい箇所があるので、管轄する委員会に改善を要求する必要がある。	○	【教務委員会】 Webにより公開、又学生には印刷し配付している。 【電子情報工学科】 制御情報システム工学プログラムについて2014年度JABEE継続審査を受け認定された。(五編) 【専攻科委員会】 ホームページ上で公開しており、各教員が学期開始時の授業で、印刷したものを配布している。	シラバスのチェックについて種々の改善の指摘を受けた。
	エ シラバスに従った教育の実施		【教務委員会】 シラバスの授業計画に基づき各授業を実施している。 【専攻科委員会】 科目別学習目標達成度調査により、学生が確認している。		○	【教務委員会】 シラバスの授業計画に基づき各授業を実施している。	
	(3) 学生自身の達成度点検と学習への反映	教務委員会(専攻科委員会)	【教務委員会】 解答・アンケート期間において、達成度点検を行っている。 【専攻科委員会】 科目別学習目標達成度調査で自分の学習達成度を確認している。		○	【教務委員会】 解答・アンケート期間において、達成度点検を行っている。 【専攻科委員会】 科目別学習目標達成度調査等で自分の学習達成度を確認している。	
3-2 教育組織	(1) 教員の数と能力および教育支援体制 ア 教員の数と能力	校長	・教員の配置については各学科の定員を考慮して、欠員が出た場合は原則公募で募集をしている。 ・教員の研究業績をまとめて提出してもらっている。		○	・教員の人数については各学科の定員を満足するように配置している。 ・年度ごとに各教員に研究業績を提出してもらっている。	
	イ 教育支援体制		・教員の教育意識の向上を図るために、校長裁量経費、副校長裁量経費等で支援している。		○	・教員の教育意識の向上を図るために、校長裁量経費、外部財団研究助成候補者で支援している。	
	(2) 科目間の連携・教育効果改善教員間連絡ネットワーク組織の存在と活動の実施 ア 教員間連絡ネットワークの存在	副校長 教務委員会	【副校長】 校長補佐の懇談会、学科長との懇談会を定期的に開催し、さまざまな話題について議論した。 【教務委員会】 学科会議・教務委員会等において、連携・教育効果について検討を行っている。		○	【副校長】 校長補佐、学科長との連絡会を定期的に開催し、さまざまな話題について議論した。 【教務委員会】 学科会議・教務委員会等において、連携・教育効果について検討を行っている。	
	イ 教員間連絡ネットワークの活動実績		【副校長】 ・3主事と校長および副校長との懇談会、学科長と校長および副校長との懇談会を定期的に開催し、また不定期ながら校長・2副校長・6主事の懇談会も設けて、教員間の意思疎通に努めた。 ・両キャンパスの教員のコミュニケーションが図れるように、会議は両キャンパスで交互に開催した。さらに、テレビ会議を有効に活用して教員コミュニケーションをはかった。 【教務委員会】 学科会議の中で「シラバス検討会」及び「カリキュラム検討会」等の時間を設け、各科目間の教育内容の相互理解や情報交換を行っている。		○	【副校長】 ・両キャンパスの校長補佐と校長および副校長との連絡会、各キャンパスにおいては、校長補佐、学科長と校長および副校長との連絡会を定期的に開催した。 ・両キャンパスの教員のコミュニケーションが図れるように、会議は両キャンパスで交互に開催した。さらに、テレビ会議を有効に活用して教員コミュニケーションをはかった。 【教務委員会】 学科会議の中で「シラバス検討会」及び「カリキュラム検討会」等の時間を設け、各科目間の教育内容の相互理解や情報交換を行っている。	

自己点検・自己評価基準項目チェックシート(平成26年度版)

※ 記入箇所は太枠の部分のみです。チェック欄には次の記号を入れてください。
 ○=満たしている △=改善を要する ×=不十分
 ※ 小項目(ア, イ, ウ)ごとに記入願います。記入欄は適宜増やしてください。

基準	項目	担当	前年度自己点検評価状況	前年度改善を要した事項	チェック欄	実施・改善状況	改善を要する事項
	(3) 教員の質的向上を図る仕組み(FD)の存在、開示、実施 ア FDの存在	FD委員会	平成22年度からFD委員会を設置し、FD活動について検討を進めている。		○	平成22年度からFD委員会を設置し、FD活動について検討を進めている。FD活動の見直しを検討した。	
	イ FDの開示方法		FD研修会及び勉強会へ参加した報告書を学内教職員が閲覧できるよう、学内ネットワークに掲載した。また、HPIにFD活動実績一覧の項目を作成した。		○	FD研修会及び勉強会へ参加した報告書を学内教職員が閲覧できるよう、学内ネットワークに掲載した。また、HPIにFD活動実績一覧の項目を作成している。	
	ウ FDの実績		・外部講師を招聘し、ネットモラルをテーマとしたFD研修会(11/29)を開催した。 ・教員間の授業参観も実施し、評価シートに基づき授業改善等の検討を行った。		○	・外部講師を招聘し、知的財産をテーマとしたFD研修会(12/2)を開催した。 ・教員間の授業参観も実施し、評価シートに基づき授業改善等の検討を行った。	
	(4) 教員の教育活動に関する評価方法の開示・実施 ア 教員の教育に関する貢献の評価方法	副校長	教員顕彰制度を実施した。		○	教員顕彰制度を実施した。	
	イ 教育貢献評価方法の開示状況		教育貢献評価方法の開示については、活動実績が有る場合はホームページなどに掲載をしている。		○	教育貢献評価方法の開示については、活動実績が有る場合はホームページなどに掲載をしている。	
	ウ 教育貢献評価の実績		平成23年度から、教員の教育貢献について評価を行っている。		○	平成23年度から続けている、教員の教育貢献について評価を行っている。	
3-3 入学、学生受け入れおよび移籍の方法	(1) 入学者選抜方法の開示とそれに基づく選抜の実施 ア 選抜の基本方針	入試委員会	決定済。特記事項なし		○	推薦選抜入試検討WGにおいて、選抜方法等の検討を行う。	
	イ 具体的選抜方法		決定済。特記事項なし		○	推薦選抜入試検討WGにおいて、選抜方法等の検討を行う。	
	ウ 選抜方法の学内外への開示方法		平成25年度入学者選抜基準をホームページ上において公開するとともに、オープンキャンパスや学生募集説明会において、中学生や中学校教員に対して説明を行った。		○	平成26年度入学者選抜基準をホームページ上において公開するとともに、オープンキャンパスや学生募集説明会において、中学生や中学校教員に対して説明を行った。	
	(2) 編入学方法および編入基準の開示とそれに基づく選抜の実施 ア 選抜の基本方針	入試委員会	決定済。特記事項なし		○	決定済。特記事項なし	
	イ 具体的選抜方法		決定済。特記事項なし		○	決定済。特記事項なし	
	ウ 選抜方法および選抜基準の学内外への開示方法		7月に学生募集要項を公表し、HPIに掲載した。		○	7月に学生募集要項を公表し、HPIに掲載した。	
	(3) カリキュラム履修生の移籍	教務委員会	教務委員会で選考の上、転学科を許可している。		○	教務委員会で選考の上、転学科を許可している。	

自己点検・自己評価基準項目チェックシート(平成26年度版)

※ 記入箇所は太枠の部分のみです。チェック欄には次の記号を入れてください。
 ○=満たしている △=改善を要する ×=不十分
 ※ 小項目(A, イ, ウ)ごとに記入願います。記入欄は適宜増やしてください。

基準	項目	担当	前年度自己点検評価状況	前年度改善を要した事項	チェック欄	実施・改善状況	改善を要する事項
4 教育環境・学生支援	4-1 施設、設備	(1) 教室、実験室、演習室、図書室、情報関連設備、自習・休憩設備および食堂等の整備	<p>施設・環境マネジメント委員会、安全衛生委員会</p> <p>【施設・環境マネジメント委員会】 <本郷キャンパス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・本郷キャンパス図書館情報センターの内外部改修を実施した。 ・本郷キャンパスの実習工場において、工作機械等の集約化・再配置を行うための2期目の改修工事を実施した。 ・近隣住民からの音楽練習による騒音に対する苦情に対処するため、音楽練習場を校舎敷地の中央に位置する場所へ改築した。 ・高度化再編に伴う施設整備計画に基づき、再編統合に併せ実験室等移動に係る共通棟2、校舎棟の施設整備を行い、共通実験スペースを確保する等新しいカリキュラムに対応する施設とし、学生・教職員に対する教育環境等の改善を図った。 ・本郷キャンパス校舎の窓に夜間の害虫防止用の網戸設置し、校舎の環境改善を図った。 ・平成26年度概算要求において、管理棟の耐震改修及び学生寄宿舎本郷キャンパス4号館改修を要求した。 <p><射水キャンパス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・女子便所の窓において、夜間に影が映ることを防止するためのフィルムを貼った。 ・男子便所のみであった実験実習棟に女子便所を整備した。 ・前年度の図書館改修で、情報センター機能が図書館に移行したため、情報センター棟を改修し、eラーニング・コンテンツスタジオを設置し、図書館内サーバー室との連携によるコンテンツ作成環境を整備した。 ・第1寮棟学寮会室の面積を2倍以上に拡大し、寮生活の環境改善を図った。 <p><共通></p> <ul style="list-style-type: none"> ・学生寄宿舎の本郷キャンパス4号館及び射水キャンパス第3寮棟について、留学生の居住スペースと合宿研修施設の複合施設として整備し、国際交流の活性化及び学生支援のための改修として概算要求を行った。 ・高度化再編に伴う施設整備計画に基づき、再編統合に併せ実験室等移動に伴う施設整備を行い、共通実験スペースを確保する等、新しいカリキュラムに対応する施設とし、学生・教職員に対する教育環境等の改善を図った。 <p>【安全衛生委員会】 <キャンパス共通></p> <ul style="list-style-type: none"> ・年間を通し校内全域巡視を実施、及び年2回校長及び安全衛生委員会委員による校内巡視(射:6/11, 3/27)と改善指導 ・毎月産業医による健康相談を実施 ・救命救急講習会の実施(射:6/5) ・安全衛生管理計画の策定 ・構内安全運転徹底の周知 ・受動喫煙防止への対応 ・健康診断の実施(射:9/12) ・インフルエンザワクチン集団接種の実施(射:11/26) ・インフルエンザ等への対応を注意喚起 ・避難訓練の実施 ・ストレスチェックシートによるメンタルヘルスチェックを実施 <p><射水キャンパス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・第1体育館前の廊下及び第1専門棟3階、4階廊下の照明を、人感センサー対応の器具に更新。 ・平成24年度補正事業により、溶接実習室に溶接作業時に発生する有害ガスを除去する集塵装置を設置。 	<p>・耐震補強を要する建物が残っており年次計画により整備を要する。</p> <p>・高度化再編VI期工事として、第1専門棟1階の一部、第2専門棟1階の一部の整備を行う必要がある。</p> <p>・管内喫煙室等第3寮棟補修。</p>	○	<p>【施設・環境マネジメント委員会】 <本郷キャンパス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・高度化再編に伴う施設整備計画に基づき、再編統合に併せ実験室等移動に係るM棟の施設整備を行い、共通実験スペースを確保する等新しいカリキュラムに対応する施設とし、学生・教職員に対する教育環境等の改善を図った。 ・実習工場西面において、直射日光による局所的な温度上昇が原因となる工作機械の加工精度低下が懸念されていたため、紫外線対策として実習工場西面の窓に断熱および紫外線カットフィルムの貼付した。 ・学生寄宿舎でエアコンがない部屋にエアコンを設置するため(1号館8室、4号館全室)の電源工事を行った。 ・平成27年度概算要求において、寄宿舎4号館改修及び屋内運動場等耐震改修を要求した。 <p><射水キャンパス></p> <ul style="list-style-type: none"> ・管理棟がB値0.57と低く基準の0.7を下回っていたため、概算要求事業として耐震補強を実施するほか、部分的に内部改修・外部改修を行った。 ・高度化再編VI期工事として、第1専門棟1階材料力学実験室、教員室を共通ラボA、共通ラボB、共通ラボC、教員室として整備した。また、第2専門棟1階教室をIT融合実験室として教育環境等の改善を図った。 ・学内営繕事業として、①第2専門棟4階旧パワーエレクトロニクス実験室を知的情報処理実験室に使用目的を変更するため、床面をフリーアクセスに整備して使用者の安全面と情報の安定化を確保した。 ②第2専門棟3階知能工学実験室内の暗室を撤去し、一部屋にして空間を有効活用できるよう整備した。③第2専門棟3階数値情報実験室と電子情報第4実験室の分割している壁を撤去し、電子実験系の教員が管理する実験室とし専攻科生・短期留学生の受入れ体制を整えた。 ④第3専門棟廊下の照明を人感センサー付きのものに取替えた。また、構内の一部外灯設備を水銀灯ランプからLEDランプに交換した。 ・今年度、主に教員が使用する部屋の使用状況調査を実施した。 ・今後の職員宿舎の取扱いについて検討を行い、今後建替要求を行わないこととし、危険建物は順次取り壊すこととした。 	

自己点検・自己評価基準項目チェックシート(平成26年度版)

※ 記入箇所は太枠の部分のみです。チェック欄には次の記号を入れてください。
 ○=満たしている △=改善を要する ×=不十分
 ※ 小項目(ア、イ、ウ)ごとに記入願います。記入欄は適宜増やしてください。

基準	項目	担当	前年度自己点検評価状況	前年度改善を要した事項	チェック欄	実施・改善状況	改善を要する事項
4-2 財源	(1) 施設、設備の整備・維持・運用に必要な財源確保への取り組み	予算委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育等施設基盤経費で、屋上防水補修、渡り廊下屋根葺替及び塗装など各施設整備・維持管理に係る財源を確保し、維持・整備・運用を行った。 ・ 校長裁量経費で、図書館改修に伴う建物新営設備費の補填や大型設備の維持管理に係る財源を確保し、整備・維持を行った。 ・ 当初予算配分時に臨時経費として、改修工事に伴う機器等の移設経費、学校紹介動画コンテンツ作成経費、特別支援教育室支援員経費、入試・教務システムプログラム機能修正経費、各種会議等開催経費などを別途予算措置した。 		○	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教育等施設基盤経費で、校舎廊下壁面修繕及び校舎渡り廊下他照明器具修繕等各施設整備・維持管理にかかる財源を確保し、維持・整備・運用を行った。 ・ 校長裁量経費で、武道場の外壁修理や大型設備の維持管理にかかる財源を確保し、整備・維持を行った。 ・ 当初予算配分時に臨時経費として、入試・教務システムプログラム機能修正経費、各種会議等開催経費などを別途予算措置した。 	
4-3 学生への支援体制	(1) 教育環境および学習支援に関して、授業等での学生の理解を助け、学生の勉学意欲を増進し、学生の要望にも配慮する仕組みの存在、その仕組みの開示、活動の実施 ア 学生への支援体制の存在	教務委員会 学生委員会 寮務委員会 学生相談室	<p>【教務委員会】 低学年の成績不振者に対する補講として、数学のほかに物理も実施した。授業評価アンケート、学生相談については、昨年度との変更点なし</p> <p>【学生主事】 ①②⑤は昨年度と同じ ③は学生の要望を取り入れた売店の品目の充実、球技大会の日の屋外での販売等のサービスとアメニティ向上を図った。 ④は入学試験や就職活動を行った経験を学科5年生および専攻科2年生による「先輩に学ぶ」講演会を3回実施した。 ⑥「リーダー研修会」において、部活動の学生代表から学校側への要望を聞き取り、実施の可否を学生会を通じて回答した。</p>		○	<p>【教務委員会】 低学年の成績不振者に対する補講として、数学のほかに物理も実施した。さらに、特命フェローによる基礎電気等の補講を実施した。授業評価アンケート、学生相談については、昨年度との変更点なし</p> <p>【学生主事】 ※(①～⑤)は以下イ、ウに対応) ①就学支援—授業料免除制度や各種奨学金制度 ②学生相談—相談窓口として各キャンパスに相談窓口を設置 ③福利厚生—福利厚生施設としての生協運営 ④進路支援—学科5年生および専攻科2年生による「先輩に学ぶ」講演会の実施。卒業生による進路ガイダンスの開催。 ⑤その他—交通安全、消費者教育、各種講演会の実施、「リーダー研修会」の実施</p>	
	イ 支援体制の教員、職員および学生に対する開示		<p>【教務委員会】 低学年補講については数学教員及び非常勤講師で補講を実施している。数学教員と担任が連携し、学生に対する指導を行っている。授業評価アンケートは、期末試験後に、全教員・全学生が授業の一環として実施している。学業相談を含めた学生相談室の存在と活動は教員、特に、担任を通して、全学生に通知している。</p> <p>【学生主事】 ①今後HP等で情報提供できるよう検討している。 ②掲示による周知をしている。 ③生協を設立し、平成21年度射水C、平成22年度本郷Cで運営を開始している。生協用の掲示板を利用して情報を提示している。 ④掲示及び担任あてメールによる通知をしている。 ⑤掲示及び担任あてメール・教室内掲示による通知をしている。</p>		○	<p>【教務委員会】 低学年補講については数学教員及び非常勤講師で補講を実施している。数学教員と担任が連携し、学生に対する指導を行っている。さらに、特命フェローによる基礎電気等の補講を実施した。授業評価アンケートは、期末試験後に、全教員・全学生が授業の一環として実施している。学業相談を含めた学生相談室の存在と活動は教員、特に、担任を通して、全学生に通知している。</p> <p>【学生主事】 ①HP、学校通信、担任から学生への連絡等で情報提供している。 ②掲示による周知をしている。 ③生協用の掲示板を利用して情報を提示している。 ④掲示及び担任あてメールによる通知をしている。</p>	

自己点検・自己評価基準項目チェックシート(平成26年度版)

※ 記入箇所は太枠の部分のみです。チェック欄には次の記号を入れてください。
 ○=満たしている △=改善を要する ×=不十分
 ※ 小項目(ア, イ, ウ)ごとに記入願います。記入欄は適宜増やしてください。

基準	項目	担当	前年度自己点検評価状況	前年度改善を要した事項	チェック欄	実施・改善状況	改善を要する事項
	ウ 支援体制の活動実施状況		<p>【教務委員会】 前学期(7-9月)、後学期(1-2月)に低学年補講を実施した。 開講科目に関する授業評価アンケートをサンプリング調査の形で年2回実施している。 学生相談室は年間を通じて対応している。</p> <p>【学生主事】 ①②前年度と同じ ③各種支援の他、富山高専オリジナル商品(贈答用菓子等)を企画し検討したり、その他学生の要望を反映し営業している。 ④射水Cは、約100名予定(6月、2月実施予定)が参加した。 ⑤「先輩に学ぶ」シリーズでは、100名以上の参加者があり、事後アンケートでも高評価を得た。来年度もより系統的に継続する予定である。</p> <p>その他 ・前年度末の両キャンパス学生会執行部員による合同研修会、学生委員会と学生会とのキックオフ・ミーティング、体育局会議、評議会、編集委員会等を定期開催し、学生会活動活性化を通じた学生支援を行った。 ・交通委員による自転車鍵かけ点検を年3回実施した。 ・地元の自治会の役員と懇談し、学生補導等に関して地域住民との情報交換を行った。 ・学生がトラブルに巻き込まれやすいインターネット利用に対して、外部講師を招いてネットモラル講習会を新設し開催した。 ・運動部を対象に熱中症防止のための講習会を新設し開催した。</p>		○	<p>【教務委員会】 前学期(7-9月)、後学期(1-2月)に低学年補講を実施した。 11月頃より特命ファローによる基礎電気等の補講を実施した。 開講科目に関する授業評価アンケートをサンプリング調査の形で年2回実施している。 学生相談室は年間を通じて対応している。</p> <p>【学生主事】 ①就学支援-相談窓口として、いつでも学務課、学生課窓口で対応できるようにしている。 ②学生相談-各キャンパス相談室においてカウンセラーによる相談を週2回実施している。 ③福利厚生-生協において、食堂、売店運営等各種支援の他、富山高専オリジナル商品(贈答用菓子等)を企画し検討したり、その他学生の要望を反映し営業している。また、本郷キャンパスに自動販売機を増設した。 ④進路支援-射水キャンパスでは、4年生を対象に就職説明会、進学説明会を実施し約100名以上(5月、2月実施予定)が参加した。本郷Cでは、「先輩に学ぶ」シリーズでは、4回開催し、事後アンケートでも高評価を得た。来年度もより系統的に継続する予定である。</p> <p>⑤その他 ・学生の意見を聴取するために、各クラスの評議員からなる評議会を立ち上げて学生会が意見集約した。 ・学生がトラブルに巻き込まれやすいSNS利用に対して、集会での注意及び文書を配付して注意喚起をした。 ・外部講師を招いてネットモラル講習会を新設し開催した。 ・地元の自治会の役員と懇談し、学生補導等に関して地域住民との情報交換を行った。 ・運動部を対象に熱中症防止のための講習会を新設し開催した。</p>	

自己点検・自己評価基準項目チェックシート(平成26年度版)

※ 記入箇所は太枠の部分のみです。チェック欄には次の記号を入れてください。
 ○=満たしている △=改善を要する ×=不十分
 ※ 小項目(ア, イ, ウ)ごとに記入願います。記入欄は適宜増やしてください。

基準	項目	担当	前年度自己点検評価状況	前年度改善を要した事項	チェック欄	実施・改善状況	改善を要する事項
5 学習・教育目標の達成 5-1 学習・教育目標の達成	(1) 科目ごとの目標に対する達成度評価の実施	教務委員会 (専攻科委員会)	【教務委員会】 各科目ごとに目標をシラバスに掲載し、各担当教員が期末試験等で達成度の確認を行っている。 【専攻科委員会】 シラバスに記載された達成度評価基準に従って評価されている。		○	【教務委員会】 各科目ごとに目標をシラバスに掲載し、各担当教員が期末試験等で達成度の確認を行っている。	
	(2) 他の高等教育機関で取得した単位および編入生等が編入前に取得した単位に関する評価方法・評価基準の作成とそれに基づく単位認定の審議 ア 評価方法と評価基準の作成	教務委員会 (専攻科委員会)	【教務委員会】 学業に関する規則(第9条, 10条)で定めている。 【専攻科委員会】 放送大学で取得した単位を認定しており、評価方法および評価基準は、放送大学で定められたとおり実施されている。		○	【教務委員会】 学業に関する規則(第9条, 10条)で定めている。	
	イ 評価方法と評価基準の運用		【教務委員会】 規則に基づき、教務委員会で審議し単位の認定を行っている。 【専攻科委員会】 規則に基づき、専攻科委員会で審議し単位の認定を行っている。		○	【教務委員会】 規則に基づき、教務委員会で審議し単位の認定を行っている。	
	(3) 学習・教育目標の各項目に対する達成度の総合的評価方法・評価基準の作成とそれに基づく評価の ア 学習・教育目標の各項目の達成度の評価方法と評価基準の設定	各学科・専攻科	【機械システム工学科】【機械工学科】 各教科の学習目標、達成目標および評価基準を定め、これらをシラバスにもとづき学生に説明している。 【電気制御システム工学科】 学科の学習・教育目標に基づいて、各教科の達成度と評価基準を設定し、定期試験、レポート等でその基準の達成を評価した。 【物質化学工学科】 【物質工学科】 各教科の学習目標、達成目標および評価基準を定め、これをシラバスに記載し、定期試験、レポート等でその基準の達成を評価している。 【電子情報工学科】 各教科毎に学科の学習・教育目標にもとづいた達成度と評価基準を設定し、シラバスに記載し、定期試験、レポート等でその基準の達成を評価している。 【電子制御工学科】 学科の特色および卒業後の専門性を考慮した教育目標を設定し、シラバスに記載している。 【国際ビジネス学科】 【国際流通学科】 引き続き、各教科毎に学科の学習・教育目標にもとづいた達成度と評価基準を設定し、シラバスに記載し、定期試験、レポート等でその基準の達成を評価している。 【商船学科】 STCW条約1-8規則(資質基準)に基づく資質基準制度により商船学科の教育目標を設定し、達成するための計画を立て、評価する作業を3月に実施している。また、これらの計画や評価等の内容については所定の様式に基づいて記録し、5年間保存している。海技免状取得など資格取得による評価は適宜しかるべき手続きを経て単位化して評価している。 【一般教養科】 TOEICの実施時期を前倒しして、4年後半に目標に沿った点数が取れるように工夫し、成果があがっている。		○ ○ ○ ○ ○ ○	【機械システム工学科】【機械工学科】 各教科の学習目標、達成目標および評価基準を定め、これらをシラバスにもとづき学生に説明していた。 【電気制御システム工学科】【電気工学科】 学科の学習・教育目標に基づいて、各教科の達成度と評価基準を設定し、定期試験、レポート等でその基準の達成を評価した。 【物質化学工学科】 各教科の学習目標、達成目標および評価基準を定め、これをシラバスに記載し、定期試験、レポート等でその基準の達成を評価している。 【電子情報工学科】 制御情報システム工学プログラムについて2014年度JABEE継続審査を受け認定された。(再掲) モデルコアカリキュラムに即した情報分野のCBT出題問題を10題作成した。 【国際ビジネス学科】 各教科毎に学科の学習・教育目標にもとづいた達成度と評価基準を設定し、シラバスに記載し、定期試験、レポート、プレゼンテーション等でその基準の達成を評価した。 【商船学科】 STCW条約1-8規則(資質基準)に基づく資質基準制度により商船学科の教育目標を設定し、達成するための計画を立て、評価する作業を3月に実施している。また、これらの計画や評価等の内容については所定の様式に基づいて記録し、5年間保存している。海技免状取得など資格取得による評価は適宜しかるべき手続きを経て単位化して評価している。 【一般教養科】 例年4年生を対象に「TOEIC対策講座」を実施してきたが、平成27年度より3年生を対象に実施することとなり移行措置として平成27年度は3年、4年を対象に実施することとなった。	学習教育目標及び授業との対応関係について、早急に改善対応したシラバスを作成する必要がある。

自己点検・自己評価基準項目チェックシート(平成26年度版)

※ 記入箇所は太枠の部分のみです。チェック欄には次の記号を入れてください。
 ○=満たしている △=改善を要する ×=不十分
 ※ 小項目(ア, イ, ウ)ごとに記入願います。記入欄は適宜増やしてください。

基準	項目	担当	前年度自己点検評価状況	前年度改善を要した事項	チェック欄	実施・改善状況	改善を要する事項
			<p>【商船学科】 学生による授業点検アンケートの実施、シラバスおよび答案等資料の保管により適正な評価が運用されていることを確認している。また、教員相互による、ピアレビューを実施し、授業等に関する改善を進めている。</p> <p>【一般教養科】 特記事項なし</p> <p>【専攻科】 専攻科生は達成度自己点検表を作成し、これを特別研究指導教員、専攻科委員、副専攻科長が点検し、専攻科委員会で審議している。</p>		○	<p>【商船学科】 学生による授業点検アンケートの実施、シラバスおよび答案等資料の保管により適正な評価が運用されていることを確認している。また、教員相互による、ピアレビューを実施し、授業等に関する改善を進めている。</p> <p>【一般教養科】 学生による授業評価アンケート・教員相互によるピアレビューを実施し、授業改善を進めている。</p> <p>【専攻科】 専攻科生は達成度自己点検表を作成し、これを特別研究指導教員、専攻科委員、副専攻科長が点検し、専攻科委員会で審議している。</p>	
	(4) 修了生全員のすべての学習・教育目標の達成	教務委員会 (専攻科委員会)	<p>【教務委員会】 教務委員会において、学年末成績判定、卒業判定を実施している。</p> <p>【専攻科委員会】 修了生全員が自ら達成度自己点検表により達成度を点検し、これを特別研究指導教員、副専攻科長、学務課教務担当が点検し、専攻科委員会で審議、確認している。</p>		○	<p>【教務委員会】 教務委員会において、学年末成績判定、卒業判定を実施している。</p> <p>【専攻科委員会】 修了生全員が自ら達成度自己点検表により達成度を点検し、これを特別研究指導教員、副専攻科長、学務課教務担当が点検し、専攻科委員会で審議、確認している。</p>	
6 教育改善	6-1 教育点検	教務委員会 学生委員会 寮務委員会 (専攻科委員会)	<p>【教務委員会】 教務委員会・FD委員会において、教育課程等の点検を実施している。</p> <p>【専攻科委員会】 学生による授業評価アンケート、学生懇談会が実施されている。</p>		○	<p>【教務委員会】 教務委員会・FD委員会において、教育課程等の点検を実施している。</p> <p>【専攻科委員会】 学生による授業評価アンケート、学生懇談会が実施されている。</p>	
	イ 教育点検システムの教員に対する開示		<p>【教務委員会】 教員会議で点検内容等を報告している。</p> <p>【専攻科委員会】 学生による授業評価アンケート等は、担当教員に開示されている。</p>		○	<p>【教務委員会】 教員会議で点検内容等を報告している。</p> <p>【専攻科委員会】 学生による授業評価アンケート等は、担当教員に開示されている。</p>	
	ウ 教育点検システムに関する活動の実施		<p>【教務委員会】 学生授業評価アンケート・教員相互によるピアレビューを実施し、授業等に関する改善を進めている。 また、学生・教務上の制度の整備・検討を実施している。</p> <p>【専攻科委員会】 自己点検評価委員会、同WGが活動を行っている。</p>		○	<p>【教務委員会】 学生授業評価アンケート・教員相互によるピアレビューを実施し、授業等に関する改善を進めている。 また、学生・教務上の制度の整備・検討を実施している。</p> <p>【専攻科委員会】 自己点検評価委員会、同WGが活動を行っている。</p>	
	(2) カリキュラムの教育活動を点検する仕組みにおける社会の要求や学生の要望にも配慮する仕組みの存在と、カリキュラムの教育活動を点検する仕組み自体の機能も点検できる構	教務委員会 (専攻科委員会)					

自己点検・自己評価基準項目チェックシート(平成26年度版)

※ 記入箇所は太線の部分のみです。チェック欄には次の記号を入れてください。
 ○=満たしている △=改善を要する ×=不十分
 ※ 小項目(ア、イ、ウ)ごとに記入願います。記入欄は適宜増やしてください。

基準	項目	担当	前年度自己点検評価状況	前年度改善を要した事項	チェック欄	実施・改善状況	改善を要する事項
	ア 社会の要求や学生の要望に配慮する仕組みの存在		【教務委員会】 学生による授業評価アンケートを実施している。		○	【教務委員会】 学生による授業評価アンケートを実施している。	
			【専攻科委員会】 本校の外部評価委員会として運営諮問会議がある。また、本校在学生からの意見を聞く学生懇談会も定期的実施している。		○	【専攻科委員会】 本校の外部評価委員会として運営諮問会議がある。また、本校在学生からの意見を聞く学生懇談会も定期的実施している。	
	イ 点検システム自体を点検できる構成		自己点検評価委員会、同WG等が存在し点検を実施している。		○	【自己点検評価委員会】 自己点検評価委員会、同WG等が存在し点検を実施している。 【電子情報工学科・制御情報システム工学】 制御情報システム工学プログラムについて2014年度JABEE継続審査を受け認定された。(再掲)	PDCAサイクルについて、早急に改善する必要がある。(再掲)
6-2 継続的改善	(3) カリキュラムの教育活動を点検する仕組みを構成する ア 関係教員が記録を閲覧する方法	教務委員会 (専攻科委員)	【教務委員会】 学内サーバーに議事要旨を掲載し、随時閲覧可能となっている。 【専攻科委員会】 ・運営審議会、教員会議、教員報告会、各種委員会で報告している。 ・グループウェアに議事録等を登録することにより、情報の共有化を図っている。		○	【教務委員会】 学内サーバーに議事要旨を掲載し、随時閲覧可能となっている。 【専攻科委員会】 ・運営審議会、教員会議、教員報告会、各種委員会で報告している。 ・グループウェアに議事録等を登録することにより、情報の共有化を図っている。	
	(1) 教育点検の結果に基づいて、基準の内容(分野別要件を含む)に則してカリキュラムを継続的に改善する仕組みの存在と、改善活動の実施 ア 改善システムの存在	教務委員会 (専攻科委員会) 自己点検評価委員会 FD委員会	【電子情報工学科・制御】 制御情報システム工学プログラムについて2014年度JABEE継続審査を受け認定された。(再掲)		○	【電子情報工学科・制御】 制御情報システム工学プログラムについて2014年度JABEE継続審査を受け認定された。(再掲)	PDCAサイクルについて早急に改善する必要がある。(再掲)
	イ 改善活動の実施状況		【教務委員会】 新設6学科に対応する教務・学生上の制度(インターンシップ、平均点の算出方法等に関する取扱い等)を整備した。 【専攻科委員会】 学生との懇談会を定期的実施し、学生からの要望を取りまとめ、対応可能な事項について改善している。 年2回の運営諮問会議において外部委員から評価、改善について意見を伺い学校運営に活かしている。 【自己点検評価委員会】 自己点検評価委員会で各項目について検証を行い、改善を促すとともに、チェックシートに記載した評価結果をデスクネットで公開し周知を図った。		○	【教務委員会】 新教育課程の完成年度にとまない、カリキュラムの改定等を行う。 【専攻科委員会】 学生との懇談会を定期的実施し、学生からの要望を取りまとめ、対応可能な事項について改善している。	自己点検評価項目の見直しを検討する。

自己点検・自己評価基準項目チェックシート(平成26年度版)

※ 記入箇所は太枠の部分のみです。チェック欄には次の記号を入れてください。
 ○=満たしている △=改善を要する ×=不十分
 ※ 小項目(ア, イ, ウ)ごとに記入願います。記入欄は適宜増やしてください。

基準	項目	担当	前年度自己点検評価状況	前年度改善を要した事項	チェック欄	実施・改善状況	改善を要する事項
			<p>【国際ビジネス学科】</p> <p>【国際流通学科】</p> <p>・異文化実習プログラム、長期留学プログラムを継続的に実施している。(異文化実習プログラム:中国5名、韓国11名、ロシア4名、カナダ33名、提携校長期留学プログラム:カナダ1年留学1名、カナダ半年留学6名)</p> <p>・上記実施にあたり、事前指導、事後指導の充実を図り、引き続き数回に亘るガイダンスに加え、3月および7月に事前セミナーを実施し、長期留学後には、ライティングの指導を中心に9月および2月に実施した。</p> <p>【商船学科】</p> <p>特記事項なし</p> <p>【一般教養科】</p> <p>学科とも協力し、英語や情報などのボランティアを行っている。</p> <p>【専攻科】</p> <p>国際インターンシップ参加を推奨し、本年度は県内企業におけるマレーシア工場でのインターンシップに2名、英国北アイルランドSouth Eastern Regional Collegeでの国際インターンシップに7名が参加した。</p>		<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>【国際ビジネス学科】</p> <p>・今年度も異文化実習プログラム、長期留学プログラムを継続的に実施した。(異文化実習プログラム:中国9名、韓国7名、ロシア8名、カナダ15名、提携校長期留学プログラム:カナダ1年留学2名、カナダ半年留学10名)</p> <p>・上記実施にあたり、事前指導、事後指導の充実を図り、引き続き数回に亘るガイダンスに加え、3月および7月に事前セミナーを実施し、長期留学後には、ライティングの指導を中心に9月および2月に実施した。</p> <p>・以上は学科を中心とする校内運営のプログラムであるが、これ以外にも高専機構主導のシンガポールへの短期留学プログラムへ1年生が10名以上参加。また、富山県が主催するタイへのインターンシップへ4年生1名が参加した。</p> <p>・さらに、タイから4名、北アイルランドから1名、シンガポールから2名の留学生を学科として受け入れ、学科教員が一人1名をメドに留学生を研究指導した。</p> <p>【商船学科】</p> <p>商船学科では今年度も昨年度に引き続きハワイ大学カウアイコミュニティカレッジへ国際インターンシップで学生(希望者)を派遣した。学生は語学のみならず、相手国の文化に直に触れるユニークなシステムにより国際人としてのセンスを身に付けて来た。カウアイカレッジの学生1名を商船学科に短期留学生として3週間受け入れを行った。</p> <p>【一般教養科】</p> <p>学科とも協力し、英語や情報などのボランティアを行っている。また、今年度からは、提携校であるハワイのカウアイコミュニティカレッジの英語圏異文化実習に工学系の学生6名が参加した。</p> <p>【専攻科】</p> <p>国際インターンシップ参加を推奨し、英国北アイルランドSouth Eastern Regional Collegeでの国際インターンシップに8名が参加した。</p>	
	イ 交流協定の締結状況と活用状況		<p>【地域人材開発本部】</p> <p>中国東北大学と平成26年9月にセミナーを開催するため、調整を行った。そのための経費を日本学術振興会二国間連携交流事業に申請した。(地域イノベーションセンター)</p> <p>タイ・キングモンクット工科大学ラカバンと平成26年11月にセミナーを開催するため、調整を行った。(国際教育センター)</p> <p>中部科学技術センターの海外研究者招へい事業を活用することで、マラ工科大学(マレーシア)からナピル准教授を招聘し、学生教育や教員との共同研究において連携した。(地域イノベーションセンター)</p> <p>ハワイ・カウアイコミュニティカレッジと、次年度夏の4年生向け英語圏異文化実習の実施に向けて、調整を行った。(国際教育センター)</p> <p>【機械システム工学科】【機械工学科】</p> <p>特記事項なし。</p>		<p>○</p> <p>△</p>	<p>【地域人材開発本部】</p> <p>中国東北大学と平成26年9月にセミナーを開催した。</p> <p>ハンガリーMFAおよびバースマニーベールカトリック大学と学術協定を締結した。</p> <p>中部科学技術センターの海外研究者招へい事業を活用することで、キョンヒ大学(韓国)からJo教授を招へいし、学生教育や教員との共同研究において連携した。(地域イノベーションセンター)</p> <p>【機械システム工学科】【機械工学科】</p> <p>特記事項なし。</p>	

自己点検・自己評価基準項目チェックシート(平成26年度版)

※ 記入箇所は太枠の部分のみです。チェック欄には次の記号を入れてください。
○=満たしている △=改善を要する ×=不十分
※ 小項目(ア, イ, ウ)ごとに記入願います。記入欄は適宜増やしてください。

基準	項目	担当	前年度自己点検評価状況	前年度改善を要した事項	チェック欄	実施・改善状況	改善を要する事項
			<p>【電気制御システム工学科】【電気工学科】 特記事項なし</p> <p>【物質化学工学科】【物質工学科】 特記事項なし</p> <p>【電子情報工学科】 ・ナンヤンポリテクからの短期留学生(3ヶ月)4名を受け入れ、研究指導を行った。(再掲) ・専攻科と連携し、北アイルランドSERCの学生と協働でのづくりを行うPBL実習を行った。(再掲)</p> <p>【国際ビジネス学科】 【国際流通学科】 ・平成18年度から本校とカナダのビクトリア大学(Uvic)と長期留学プログラムの提携を結び、4年次前期の半年留学を、平成20年度からは、マラスビーナ・ハイスクール(MHS)と提携し3年次の1年留学をスタートさせて、毎年継続的に数名ずつが参加し現在に至っている。平成25年度までの累積でそれぞれ、35名、15名が参加している。 ・新たに4年次の海外インターンシップをタイのキングモンクット工科大学ラカバン校において実施した。(1名:8/26~9/6, 3名:9/4~9/17) ・タイのキングモンクット工科大学ラカバン校から2名(4/16~5/17)、2名(4/16~5/31)の計4名の短期留学の学生を受け入れた。 ・シンガポール・テマセク・ポリテクニクから短期留学の学生2名を9/23~12/15の期間受け入れた。 留学生受け入れの際は、いずれの場合も学科の各研究室へ配属し、それぞれの研究テーマに沿った研究活動への支援を行うと共に、学生をチューターとして配置するなど学生の国際理解教育と交流の機会として活用した。</p> <p>【商船学科】 昨年同様ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジとの協定の状況が良好に維持され順調に運用されている。</p> <p>【一般教養科】 特記事項なし</p> <p>【専攻科】 中国東北大学に、専攻科専任教員1名を、研究員として派遣した。期間は平成25年度4月~12月まで。</p>		<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>【電気制御システム工学科】【電気工学科】 ・タイからの短期留学生2名を受け入れ、研究指導を行った。 ・異文化実習プログラムに3年生が参加した。</p> <p>【物質化学工学科】 タイのキングモンクット工科大学ラカバン校から2名の短期留学の学生を受け入れた。</p> <p>【国際ビジネス学科】 ・平成18年度から本校とカナダのビクトリア大学(Uvic)と長期留学プログラムの提携を結び、4年次前期の半年留学を、平成20年度からは、バンクーバー・アイランド大学附属高校(VIH)と提携し3年次の1年留学をスタートさせて、毎年継続的に数名ずつが参加し現在に至っている。平成26年度までの累積でそれぞれ、45名、17名が参加している。 ・タイから4名、北アイルランドから1名、シンガポールから2名の留学生を学科として受け入れ、学科教員が一人1名の留学生を研究指導した。(再掲)</p> <p>【商船学科】 昨年同様ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジとの協定の状況が良好に維持され順調に運用されている。カウアイカレッジの学生1名を商船学科に短期留学生として3週間受け入れを行った。カウアイコミュニティカレッジに、英語外地研修として、商船学科の教員を派遣している。</p> <p>【一般教養科】 ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジにおける「英語圏異文化実習(工学系プログラム)」に3年工学系学生6名が参加し、引率指導に教員を派遣した。</p>	
	ウ 教員の国際的な活動		<p>【地域人材開発本部】 バズマニーベールカトリック大学、MFA等(ハンガリー)を教員3名(うち1名は校長)が訪問し、今後の研究連携や学生の交流に関し打ち合わせを行った。(地域イノベーションセンター)</p> <p>【機械システム工学科】【機械工学科】 本年度5名の教員が国際会議(共著を含む)への発表を行った</p> <p>【電気制御システム工学科】【電気工学科】 本年度4名の教員が海外の国際会議で研究発表を行った。</p> <p>【物質化学工学科】 1名の教員が国際学会で発表した。</p> <p>【電子情報工学科】 ・本学科教員の国際会議発表件数18件であった(2013.1.1~12.31)。</p>		<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>【地域人材開発本部】 MFA(ハンガリー)から2名の研究者を招へいし、セミナーを開催するとともに、今後の研究連携について検討を行った。 H27年度在外研究員制度を活用し、ハンガリーMFAに電気制御システム工学科多田准教授を派遣するための調整を行った。 教員の英語論文執筆の助けとするため、英語論文の書き方講座を2回(初級編、上級編)を開催した。当日はGI-netを介し、全国の希望高専に配信した。(地域イノベーションセンター)</p> <p>【機械システム工学科】【機械工学科】 本年度1名の教員が海外留学(アメリカ合衆国)を行った。</p> <p>【電気制御システム工学科】【電気工学科】 ・本学科教員の国際会議発表件数は2件であった。</p> <p>【物質化学工学科】 3名の教員が国際学会で発表した。</p> <p>【電子情報工学科】 ・本学科教員の国際会議発表件数は7件であった(2014.1.1~12.31)。</p>	

自己点検・自己評価基準項目チェックシート(平成26年度版)

※ 記入箇所は太枠の部分のみです。チェック欄には次の記号を入れてください。
 ○=満たしている △=改善を要する ×=不十分
 ※ 小項目(ア, イ, ウ)ごとに記入願います。記入欄は適宜増やしてください。

基準	項目	担当	前年度自己点検評価状況	前年度改善を要した事項	チェック欄	実施・改善状況	改善を要する事項
			<p>【国際ビジネス学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・最近の中古車及び中古自動車部品輸出の動向を把握するため、ロシアにて中古車輸入販売業者、中古自動車部品輸入販売業者、海運業者を対象に、日本、韓国からの中古車輸入の傾向およびその流通状況について聞き取り調査を行った。(ロシア連邦:9月2日-10日) ・キングモンクット工科大学ラカパン校および三菱エレベーターアジア㈱において、インターンシップ開発調査を行った。(タイ:9月4日-5日) ・韓国、徳成女子大学社会学部において講義を行った。「日本の青年層の就業問題(若者気質及び韓国と比較して)」(3月27日) ・タイにおいて北陸企業の調査を行った。 ・訪問先:NSEC(日本セックの現地法人)、8番らーめん(3月9日-13日) ・米粉を利用した商品開発の調査のため、CHO HENG RICE VERMICELLI FACTORY.CO.,LTDを訪問し、Deputy Managing Director KRAILAST VONGSURAKRAI氏へのヒアリング調査を実施した。(H26年3月11日) ・Thailand NSECにて 製品開発に関するセミナー開催を実施した。(H26年3月10日) ・King Mongkut's Institute of Technology LadkrabangのOpal Suwunnamek教授を招聘し、11月18日(月)1~2限の商学概論の授業(K1)で、「タイの経済状況とASEAN」というテーマの講演会を英語で実施した。 ・King Mongkut's Institute of Technology LadkrabangのOpal Suwunnamek教授を招聘し、11月18日(月)3~4限のマーケティング論の授業(K2)で、「タイの経済状況とASEAN」というテーマの講演会・討論会を英語で実施した。 ・シンガポールのテマセクポリテクニクのAdrian Noel Danker氏と学生交換と交流について検討した。(H26年3月26日) ・King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabangにて、国際ビジネス学科4年生がインターンシップする際に、引率者が同大学院(修士課程)の学生を対象に「日本のビジネス状況」をテーマとした授業を行う可能性について検討した。(H26年3月11日) <p>【商船学科】</p> <p>商船学科教員は上記ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジとの協定における学生インターンシップの引率指導に教員を次々に派遣し、できるだけ多くの教員がこのプログラムの理解と経験をしてもらい全体力を傾注できるように努力している。また学科教員を1名KCCに外地研修として派遣しており、より深くKCCと研究活動供与ができるよう活動して</p> <p>【一般教養科】</p> <p>ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジとの協定における学生インターンシップの引率指導に教員を派遣。</p>		○	<p>【国際ビジネス学科】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・19世紀末制作の日本ハリストス正教会東京復活大聖堂旧イコノスタシスについて、当時のイコノ潮流における特徴を明らかにするために、ロシアサンクトペテルブルグのロシア美術館、宗教史博物館、エルミタージュ美術館において同作者による所蔵作品の調査を行うと共に、研究者と意見交換をした。(ロシア、3月18日-21日) <p>【商船学科】</p> <p>商船学科教員は上記ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジとの協定における学生インターンシップの引率指導に教員を次々に派遣し、できるだけ多くの教員がこのプログラムの理解と経験をもらい全体力を傾注できるように努力している。学科教員をKCCに外地英語研修として派遣している。</p> <p>【一般教養科】</p> <p>ハワイ大学カウアイコミュニティカレッジにおける「英語圏異文化実習(工学系プログラム)」の引率指導に教員を派遣した。</p>	
8 社会との連携	地域社会に広報するための体制	地域人材開発本部(地域イノベーションセンター、教育技術センター、国際教育センター)	<p>【専攻科】</p> <p>中国東北大学に、専攻科専任教員1名を、研究員として派遣した。期間は平成25年度4月~12月まで。</p>		△	<p>【専攻科】</p> <p>今年度は派遣した教員はいなかった。</p>	

自己点検・自己評価基準項目チェックシート(平成26年度版)

※ 記入箇所は太枠の部分のみです。チェック欄には次の記号を入れてください。
 ○=満たしている △=改善を要する ×=不十分
 ※ 小項目(ア、イ、ウ)ごとに記入願います。記入欄は適宜増やしてください。

基準	項目	担当	前年度自己点検評価状況	前年度改善を要した事項	チェック欄	実施・改善状況	改善を要する事項
	ア 社会のニーズに合った地域連携事業の企画実施		<p>【地域人材開発本部】</p> <p>地域の諸機関からの要請に基づき、出前授業を18件実施した。また地域貢献の一環として、公開講座を22件実施した。(教育技術センター)</p> <p>第9回、第10回グリーンイノベーション研究会を実施し、産学連携や海外研究機関との連携に関して状況提供するとともに、シーズ紹介、研究成果報告等を行った。(地域イノベーションセンター)</p> <p>高専改革推進経費「TIE-UPプロジェクト」を主幹校として推進し、5高専およびキングモント工科大学ラカバンと共同で、タイに展開する日系企業向けに、社会人教育コースを開設すべく、体制作りを行い、テキストの編纂やコースの試行を行った。(国際教育センター)</p> <p>グリーンイノベーション研究会の分科会として、電子情報技術研究会「蓄電システムと生技術」「ICTと制御技術」、未利用バイオマスの有効利用に関する研究会、機器分析研究会「NMRやFIBIに関するセミナー」を開催し、学内外からの参加があった。(地域イノベーションセンター)</p> <p>特定分野の研究の高度化を図るため、再生可能エネルギー、農工連携、蓄電技術に取り組む研究グループに対し、研究経費の支援を行った。その成果は第10回グリーンイノベーション研究会で発表し、シニアフェローや地域企業等からのアドバイスを頂いた。(地域イノベーションセンター)</p> <p>出前授業を18件、公開講座を22件実施した。また企業からの要望が強い「課題解決力育成講座」を開講した。その他、本校の地域人材育成支援のあり方と、本校の学生に対する企業との協働教育を検討する「協働教育研究会」を3回開催した。(教育技術センター)</p>		○ ○ ○ ○ ○	<p>【地域人材開発本部】</p> <p>地域の諸機関からの要請に基づき、出前授業を11件実施した。サイエンス教室を実施した。また地域貢献の一環として、公開講座を11件実施した。前年度の負荷が大きかったため、負荷を低減し、政府指導推奨のグローバル教育、ICT活用、アクティブラーニングに注力できる様に改善した。(教育技術センター)</p> <p>第11回、第12回グリーンイノベーション研究会を実施し、産学連携や海外研究機関との連携に関して情報提供するとともに、特に若手教員のシーズ紹介、研究成果報告等を行った。(地域イノベーションセンター)</p> <p>グリーンイノベーション研究会の分科会として、機器分析研究会固体NMRセミナーを開催し、学内外からの参加があった。(地域イノベーションセンター)</p> <p>グリーンイノベーション研究会分科会として機器分析研究会固体NMRセミナーを開催し、外部から6社9名の方が参加された。本セミナーをきっかけとして複数の技術相談につながった。(地域イノベーションセンター)</p> <p>特定分野の研究の高度化を図るため、再生可能エネルギー、農工連携、蓄電技術に取り組む研究グループに対し、研究経費の支援を行った。その成果は平成27年度のグリーンイノベーション研究会で発表し、シニアフェローや地域企業等からのアドバイスを頂く予定である。(地域イノベーションセンター)</p> <p>出前授業を11件、公開講座を11件実施した。また企業からの実施要望が強い政府指導推奨の「課題解決力育成講座」を開講した。その他、本校の地域人材育成支援のあり方と、本校の学生に対する企業との協働教育を検討する「企業研究会」を1回開催した。具体的には、企業38社から派遣された企業人から、本校学生に「企業の社会における役割」について、色々な企業の考え方を循環方式で学ぶアクティブラーニングを実施し、学生の企業への考え方、地域との関わり方について、その資質の向上を図った。(教育技術センター)</p>	

自己点検・自己評価基準項目チェックシート(平成26年度版)

※ 記入箇所は太枠の部分のみです。チェック欄には次の記号を入れてください。
 ○=満たしている △=改善を要する ×=不十分
 ※ 小項目(ア、イ、ウ)ごとに記入願います。記入欄は適宜増やしてください。

基準	項目	担当	前年度自己点検評価状況	前年度改善を要した事項	チェック欄	実施・改善状況	改善を要する事項
			協働教育研究会の活動として「メンター研修会」を開催し、企業や学校での人材育成におけるメンターの役割について理解を深めた。(教育技術センター)		○	ユネスコ推奨のESD教育に関する継続事業として、ESD技術者倫理入門を実施した。具体的には、電気の利用全般に関するESD調査に関する学生の発表に対して、招聘した電力系企業、マスコミ、地域NPOの専門家から質疑応答を受ける形式の授業を実施した。発表型授業を通して、外部識者と学生とのアクティブな関わり合いを深め、学生と外部識者の多角面からの考えを共有することにより、学生のESDに関する教養の向上を図った。(教育技術センター)	
			第7、第8回グリーンイノベーション研究会を実施し、産学連携と海外進出に関する情報提供と本校のシーズ紹介、研究成果報告、技術相談を行った。(地域イノベーションセンター)		○	第11回と第12回を開催し、複合材料に関する最新情報や、南砺市における取組等についてご紹介いただいた。また、本校の産学連携活動やシーズについてご説明した。(地域イノベーションセンター)	
			チーム育成プログラムとして1チームの研究について経費の支援を行い、チームとしての研究活動を行った。今年度の成果として第8回グリーンイノベーション研究会で発表し、シニアフェローからアドバイス等いただいた。(地域イノベーションセンター)		○	チーム育成プログラムとして、再生可能エネルギー、農工連携、蓄電評価システム、韓国研究連携の各取り組みについて経費の支援を行った。成果は今後のグリーンイノベーション研究会等で報告予定である。	
			出前授業を16件、公開講座を15件行った。企業人材育成研究会での成果をふまえて、「課題解決力育成講座」を開講した。また、校の地域企業人材育成支援のあり方と、本校の学生教育に対する企業との協働のあり方を検討する研究会を立ち上げて、双方向型の人材育成を検討した。(教育技術センター)		○	出前授業を11件、公開講座を11件行った。企業人材育成研究会での成果をふまえて、「課題解決力育成講座」を開講した。前年度の負荷が大きかったため、負荷を低減し、政府指導推奨のグローバル教育、ICT活用、アクティブラーニングに注力できる様に改善した。地域貢献を鑑み政府指導推奨の「課題解決力育成講座」を継続開講した。(教育技術センター)	
			本校シニアフェローを委員とする協働教育研究会を立ち上げ本校のCOOP教育のあり方を検討した。(教育技術センター)		○	教育のグローバル化に対応するために、政府指導推奨のアクティブラーニングおよびICT活用に関する組織を立ち上げ実際に授業に適用した。世界トップ水準のICTシステムを導入したアクティブラーニング授業を初学年に実施し、教育のグローバル化に対応した。(教育技術センター)	
			射水市の3つの小学校において、留学経験のある学生と留学生が、小学校の英語活動に参加し、学生の留学経験や留学生の母国紹介のプレゼンテーションを行った。また、射水市の3つの小学校と英国の3つの小学校との交流を支援した。(国際教育センター)		○	射水市の5つの小学校において、留学経験のある学生と留学生が、小学校の英語活動に参加し、学生の留学経験や留学生の母国紹介のプレゼンテーションを行った。(国際教育センター)	